



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿ノ台
小
学
校

令和 6年 9月 20日

第 13 号

令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果のお知らせⅣ

【児童質問紙調査】 *学校での学習について*

学校での学習については、「主体的・対話的で深い学び」がどれだけ進められ、子どもたちの意識がどう定着してきているのかが問われています(表は「主体的・学び」の評価に関連した項目を選んでいきます)。

全体の傾向は、昨年度と変わりませんが、表に示した通り多くの項目において上向きになっています。「自分の考えを発表する機会では自分の考えをうまく伝えられるように工夫している」に対して肯定的な回答をしている児童が、全国平均と比べても高くなりました。

このことから、学校の取組としても子どもたちの意識としても良い傾向にあるように思います。もちろん、「話し合いを通じて自分の考えが深まった」や「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをま



ローマ字の学習 ローマ字入力に挑戦 3年

とめる活動」などは、全国平均と比べて低く、課題の1つです。今年度の重点目標の一つ、「主体的に協働して学び、考えを広げ深める学習の推進」(意見交流と考えを深める授業と書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実)のため、引き続き努めていきたいと思っています。

質 問	R6 鹿小 (R5/R4)	R6 全国 (R5/R4)
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	77.7 (71.0/77.4)	67.6 (63.7/65.5)
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	85.5 (79.5/62.7)	81.9 (78.8/77.4)
各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	74.4 (72.1/60.8)	79.6 (74.4/72.2)
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	80.0 (76.4/75.5)	84.3 (82.9/79.7)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた	83.4 (78.5/74.6)	86.3 (81.8/80.1)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた	80.0 (85.0/74.5)	80.8 (77.4/78.2)
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていた	80.0 (87.1/なし)	80.8 (81.9/なし)
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	76.6 (64.5/52.0)	84.2 (77.2/73.5)
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	72.2 (67.7/57.9)	82.5 (75.7/73.7)
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	78.9 (70.9/58.8)	88.2 (83.6/80.0)
国語の学習は好き	70.0 (66.6/51.9)	62.0 (61.5/59.4)
算数の学習は好き	64.0 (68.8/69.6)	61.0 (61.4/62.7)

性の多様性の授業から

言葉を使う時には一旦考える

9月10日、6年生を対象に、性の多様性について理解を広げるため、LGBTQの当事者の方に来てもらって特別授業をしていただきました。本校の重点目標の1つに「多様性への理解や自分らしさを発見し互いに尊重し合う態度の育成」を挙げており、特別授業は今年で3年目です。24日には3年生向けの授業を予定しています。

ダイバーシティ支援団体 Rainbow Create 代表の定政(さだまさ) 輝(ひかる)さんです。定政さんはトランスジェンダー男性です。

(裏面へつづく)



定政さんの出前授業の様子 6年

の」と言われたときには、「女の子」と言われたくなくて習っていたピアノを止めてしまったそうです。このとき感じた辛い思いは大人になっても消えず、保育士の資格を取るために実習に行った際、ピアノを弾くときになって小学生時代に言われたことを突然思い出し、体がこわばったと言います。もし園児たちに「女の子」と言われたらどうしよう——。

6月にも書きましたが、子どもたちは、軽いソリや口癖で「しね」「ころすぞ」という言葉を使ったり、悪口を言ったり、落書きをしたりすることがあります。言ったり書いたりした側がたまたまいいことだとは思っていないくても、された側はそれどころではありません。定政さんの友達はずっと悪気もなく、言ったのでしょう。でも、そのたった一言で傷つき、たった一言でずっと続けてきたピアノができなくなり、そのたった一言が大人になっても傷として疼いてしまうほどの一撃となることがあります。

「皆さんも、言葉を使う時には、相手がどう思うのか一旦考えて言葉を使うようにしてほしい。言葉は、人を傷つけることもあるけれど、励まし勇気づけることもある。」定政さんはそう語ってくださいました。

最近、LGBTQの当事者が登場するテレビドラマやレインボーカラー(LGBTQのシンボル)を商品に施し、LGBTQを応援、支援する企業の取組を目にする機会も増えてきました。

6年生には定政さんご自身の体験にも触れながら、当事者が傷つくNGな言葉についても言及されました。たとえば、ホモ、レズ、おとこおんな、おねえ、おかま、ニューハーフなどは、傷つく人がいる差別的、侮蔑的なニュアンスを含んだ言葉です。定政さんは子どもの時に、「おとこおんな」「どっちなん？」などと言われて、傷ついた体験があります。「ピアノは女の子のするもの」と言われたときには、「女の子」と言われたくなくて習っていたピアノを止めてしまったそうです。このとき感じた辛い思いは大人になっても消えず、保育士の資格を取るために実習に行った際、ピアノを弾くときになって小学生時代に言われたことを突然思い出し、体がこわばったと言います。もし園児たちに「女の子」と言われたらどうしよう——。

誰も少数派になる？！

定政さんは、「性的マイノリティ」について話すとき、マイノリティとマジョリティについて理解してもらうために、必ず二択問題のアクティビティを行います。

「ドラえもののひみつ道具、使えるとしたら、どこでもドア？ タイムマシン？」「犬と猫、どっちが好き？」「行くなら山？ 海？」など五問。「ぜったい、こっちやん」と自分の「好み」を選び、大いに盛り上がる子どもたち。どの質問でも多数派と少数派に分かれます。

最後の質問は、「五問とも多数派だった人は？」と聞かれて手を挙げた人はわずかに数人。

「誰もが少数派になり得るんです」定政さんが言った瞬間、アクティビティでそれまでざわついていた子どもたちが、すうっと静かになり、定政さんの方に体を向けました。子どもたちなりに何か感じるものがあつたのかもしれません。ちょっと素敵な瞬間でした。

いのちはなぜ大切なのでしょう

〈2年道德の授業から〉

2年生の教室を覗きに行くと、たまたま道德の学習をしていました。教材は「おとうとのたんじょう」。教科書を読んだ後、「なぜいのちは大切なのでしょう」と先生が訊ねました。

少し難しいのか、すぐには手が挙がりません。

でもしばらくすると、

『ひとつしかないから』

『いのちがないとしんでしまうから』

『(しんでしまうと)今のこの発表もできない』

『なにもできない』

と意見が続きました。

「この発表も…」と発言した男の子は、ちょっと得意気にさえ見えました。 ※写真は記事の内容と関係ありません。

感心しました。そうですね。今の、この瞬間の、ちょっとした「できること」は命があるからこそ。

当たり前だけれど、とても重要な気づきだと感じました。



コリントゲームづくり 4年